

平成24年度 第9回 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成24年(2012年)11月10日(土)
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 松原公民館 ホール
- 3 テーマ 松原地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者16名 傍聴者3名



松原公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんにちは。今日は秋の清々しい中、また、大変お忙しいところ、対話集会にお集まりいただき、本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

御存知のとおり、昨年3月11日に大きな震災がありました。震災は日本の政治や経済、国民や市民の安心安全のあり方をもう一度考え直させるきっかけになりました。私は昨年4月に就任させていただきましたが、平塚市においても、市民の皆様の安心安全を再度考える必要がありました。そのために、市民の皆様の御意見を伺いたいと考え、昨年度の対話集会は防災対策をテーマに4回開催させていただきました。

今年度の対話集会は、地区自治会連合会単位に平塚市内の地域を回らせていただいています。4月から岡崎、田村、なでしこ、土屋、豊田、八幡、崇善、旭北地区に伺い、この松原地区が9回目の開催です。地域の皆様に地域のまちづくりに関する御意見を聞かせていただき、市政に反映できることは考えさせていただこうという趣旨で開催しています。

平塚市は歴史や人材、文化がとても豊富な地域の集まりです。行政と一緒に、地域の課題や問題を地域の皆様が捉えて解決できる「地域の皆様が主人公となるまちづくり」はそれぞれの地域を輝かせます。そして、その輝きは地域の集合体である平塚市をより発展させるものと信じています。

今日は、それぞれの立場の御意見を聞かせていただき、私も一緒に話をさせていただきます。いただいた御意見に対して、この場でお答えできないこともあるかと思えます。その時には、担当課に確認して皆様にフィードバックさせていただきます。どうぞ、忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

6 主な対話集会の内容

① 防災対策について

【参加者】

津波は国道134号線を越えないと言われていました。しかし、国道134号線にはトンネル状の穴が多くあり、浸水の可能性はあります。現状の津波対策について聞きたい。

【市長】

神奈川県が12の地震による津波被害を想定しました。最大の想定では、元禄型関東地震と神縄・国府津－松田断層帯の連動地震発生19分後に約6.9メートルの津波が平塚市に到達すると予測されます。御意見のとおり、国道134号線は高さが約8メートルあり、津波が国道を越えることは想定されませんが、決して安心できません。そこで、津波への意識啓発のために、東海大学の山本教授に依頼し、10メートルの津波による浸水の様子をシミュレーションしました。シミュレーションでは、国道や駅を超えて総合公園の南側までの浸水が予想されました。また、今年8月には、県の想定を基に、津波ハザードマップを作って市民の皆様にご配布させていただきました。

特に、松原地区は川を遡上する津波への対策も必要です。相模川と金目川に囲まれている平塚市は、遡上した津波による低地への浸水が脅威です。そこで、3階建以上で逃げるスペースがある建物の津波避難ビルとしての指定を進めています。おかげ様で、線路から南側の地域では、約50棟の津波避難ビルの指定ができました。計算上、地域の皆様全員の逃げ場を確保することができました。今後は、川に面した地域の皆様が避難する場所の対策も進めていきたいと考えます。

堤防については、相模川の右岸（平塚市側）は約9割の築堤が完了しています。残りは、現在堤防を造っている海の入りの大浜地区と銀河大橋の下の部分のみです。しかし、問題は左岸（茅ヶ崎市側）です。左岸の地域の津波対策のためにも、用地買収を進めて対策を行っているところです。

【参加者】

松原地区には高齢者が多く住んでいます。災害時要援護者登録制度について、民生委員などの努力によって登録者は増えましたが、個人情報保護法の理由から情報の把握は不十分です。自治会の加入率は約7割、また、情報提供を拒む人もいます。自治会が収集できる情報は、行政が持つ情報には及びません。

災害時に要援護者を助けるためなら、個人情報保護法という理由で情報の公開を拒むことはないと思います。横浜市では対象者に手紙を出し、情報提供を拒否する人は返事を、返事のない人は全員提供という方法を取りました。今後、平塚市も対策を考える必要があると思います。

【市長】

災害時要援護者登録制度では、自治会や民生委員、地区社協、町内福祉村など、皆様のお力をお借りしています。災害時に高齢者の方や障がいのある方など、支援を必要とする方を救うための制度です。要援護者の方の支援には、誰がどこにいて、どのような状況にあるかを地域の皆様に把握していただくことが必要ですが、その大きな壁が個人情報保護法です。他市では、命を守るために、条例によって情報を把握する動きもあり、注目しています。平塚市も体制の整備を考える必要があります。

現在は、庁内の福祉や防災の担当部署が再度検討を進めながら、災害時に支援が必要な方からの情報発信によって登録を進めています。ぜひ、地域の皆様のお声もいただきながら、地域で地域を守る体制をつくっていきたいと考えます。

【参加者】

私が住む須賀新田の地域は、災害時の避難所が茅ヶ崎市の萩園中学校です。災害時には、平塚市の職員も5名待機していただけます。また、津波が起きた時には、大東化学の社宅に避難させていただきます。安否確認や本部との連絡のために、萩園中学校と同様に、大東化学の社宅にも無線機を持った平塚市の職員が来てくれると助かります。

【市長】

大雨による自主避難などで、須賀新田の地域に住む皆様には本当に御迷惑と御心配をおかけしています。担当課とも相談して、市民の皆様の安心安全のため、情報を伝えられる仕組みを今後も考えていきたいと思っています。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

大東化学株式会社平塚工場社宅などの津波避難ビルでは、あくまでも大津波警報が解除されるまでの緊急かつ一時的な退避場所です。大津波警報解除の後にも長期避難が必要な際は避難所に避難していただくため、津波避難ビルへの職員の配備は行っていませんが、今後、避難状況等の情報収集体制の整備については、検討していきたいと考えています。

（事務担当は防災危機管理課危機管理担当）

② 交通安全について

【参加者】

松原地区には、自動車や自転車による交通事故が多い場所があります。道路が整備されても、カーブミラーなどの設置が行き届いていません。

【市長】

カーブミラーなどの要望は多くいただいています。要望箇所の見えにくさなどを数値化し、基準を上回ったところから対応しています。必要ない箇所があるのでなく、要望を多くいただくため、順位付けが必要になります。事故が続くことは危険の証明です。担当にて把握し、早急な対応を続けたいと考えます。

松原地区は駅に近く、交通量が多い場所です。自動車だけでなく、自転車の課題もあります。ここで、駅前の自転車対策を進めさせていただきました。防災の観点も含めた違法駐輪対策として、駅前に二重三重に止められていた自転車を解消するため、駐輪場の整備をしました。新たに、約2,500台分の駐輪場を造っています。また、自転車の乗り方やマナーも大切で、小学校や交通安全協会の御協力を得ながら、教育や指導も含めた安全対策を行っています。

また、道路交通法上、自転車は車道を走ることになっています。しかし、駅前など、自転車が車道を走ることが危険な場所もあり、歩道に自転車専用道路があるところもあります。今後は、自転車専用道路についても考えていく必要があります。

【参加者】

松原地区には大きな踏切があります。先日、母親が渡っている間に踏切が閉まり、急いだ母親は踏切内ですまずいて転び、けがをしました。踏切内の道はとても荒れていて高齢者には危険です。JRは踏切をなくす方針のようですが、地下道を造ることや橋を架けることは費用がかかります。高齢者などが安心して利用できるように、対策を考えてほしいです。

【市長】

須馬踏切は多くの方が利用します。高齢者の方や障がいのある方も利用されます。踏切の撤廃も含めてJRの対応ですが、市民の皆様の安心安全や平塚市全体の交通安全対策にも関わります。踏切内の道の渡りやすさについては、担当からJRに伝えて対応してもらおうようお願いします。同時に、高齢化が進む中、駅の急な階段は南側と北側の往来の妨げになります。バリアフリー化も必要で、平塚駅西口ではエレベーター設置の工事が進んでいます。駅周辺のさらなるバリアフリー化も同時に要望していきたいと考えます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

当該踏切は、高齢者や障がいのある方等、誰もが駅から目的地まで安全に往来ができるよう、移動しやすい環境整備を目的とした「平塚市交通バリアフリー基本構想」における重点整備地区内の特定経路に位置付けています。その構想の中で、鉄道事業者が行う事業化推進項目として、「踏切の安全対策」を掲げていて、平成20年度には、踏切内歩道部分をカラー舗装し、歩行者と自転車の通行帯を区別して安全に通行できるようにしました。

再度現地を調査したところ、踏切内の段差等を確認しましたので、誰もが安全に利用できるよう、段差解消について、鉄道事業者に働きかけてまいります。

（事務担当はまちづくり政策課まちづくり政策担当）

【参加者】

松原小学校の前では、交通安全指導員による登下校時の児童の見守りが行われています。歩道や道路の色を分ければ、さらに子どもの安全が図れると思います。

【市長】

地域の子どもの安全を守っていただく見守り隊などの活動を本当にありがたく思い、感謝しています。改めて御礼申し上げます。歩行者や自転車だけでなく、自動車の運転手への注意喚起のために、横断歩道前の道路にカラー舗装する取り組みをはじめています。この取り組みは、今後も増やしていきたいと考えます。

【参加者】

松原小学校前の歩道はかなり傾いています。車いすを利用される方には大変危険です。車道の整備も必要ですが、高齢者や車いすを利用される方のために、歩道の整備は優先して対応する必要があると思います。

【市長】

松原小学校前の歩道については、現場の確認が必要ですので、担当課にて確認させていただきます。

また、来年4月に向けた市役所の機構改革を進める中で、交通政策の一本化を考えています。議会の承認が必要ですが、自転車を含めた平塚市内の交通対策を担当する課を考えています。車道や歩道を含め、交通対策は市民の皆様への安心安全につながります。これまで、道路の整備などは土木部、自転車の対策は市民部と分かれていましたが、一本化して平塚市の交通全体に対応する体制を整えようと考えています。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

平成24年11月27日（火）現地を確認しました。「歩道がかなり傾いていて、車いすを利用する方には大変危険です。高齢者や車いすを利用する方のために歩道の整備を優先的に対応してほしい。」との御意見についてですが、本市では公共施設のバリアフリー化を進めていて、道路の整備や補修においても段差や勾配がきつくならないように、計画・施工しています。松原小学校前の道路については、東側と西側の地盤の高さが極端に違い、民地擁壁や駐車場の出入りに支障のないよう歩道を設置した結果、西側歩道の傾斜がきつい現在の歩道となっています。民地の高さを変えると、補償費など工事費以外にも莫大な経費がかかることから、今後は家の建て替えなどが発生した場合、土地所有者に働きかけてまいります。

（事務担当は土木補修課道路維持補修担当）

【参加者】

松原地区の市役所から旧ダイエー前を通過して国道129号線につながる道路ですが、大きなトラックなどが通る時の騒音や振動で困っています。通行を規制することはできませんか。

【市長】

道路の通行に関わる時間規制などは警察が決めることですが、今日御意見をいただきましたので、担当課にて、確認して回答させていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

交通規制については、公安委員会（警察）の管轄です。御要望の内容を平塚警察署にお伝えしたところ、「具体的に規制等が必要な時間や範囲等を示していただき、その規制が地元として交通安全のために必要であり、規制を行うことに関する地元全体の合意があれば、検討します。」との回答がありました。

（事務担当はくらし安全課交通安全担当）

【参加者】

国道129号線の松原地下道は多くの児童や生徒が利用します。しかし、大雨が降ると、すぐに冠水してしまいます。排水の対策が必要だと思います。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

国道129号の松原地下道について、道路を管理している神奈川県平塚土木事務所道路維持課へ問い合わせたところ、「御指摘いただいた松原地下道の排水に関しては、現在、改修工事について検討中です。」との回答がありました。

（事務担当は土木総務課道路総務担当）

③ 道路・環境について

【参加者】

道路の側溝の掃除はどのくらい行っていますか。時々、ごみが溜まって悪臭を発することがあり、地域の住民は困っています。

【市長】

側溝から異臭がする場合には、市役所に御連絡くださるようお願いいたします。不審物が原因で異臭が発生することもあります。御連絡いただき、本市が管理する市道の側溝であれば、土木部にて対応させていただきます。

道路は総延長にすると、相当な長さです。全てを年に1回清掃することは難しいと思います。しかし、平塚市全体を計画的に、定期的な清掃などの管理は行っています。詳しい清掃の回数などは、確認して回答させていただきます。

最近は気候が変わり、1時間に50ミリメートルを超えるゲリラ豪雨が起きます。雨量が多く、側溝などで排水しきれない場合があります。競輪場の周辺は土地が低くて雨水が集まるため、現在、競輪場から港小学校の辺りにかけて、地面を深く掘って水を溜める大きな貯留管を造っています。水の排水は大切です。道路対策や下水道対策にも盛り込み、今後も対応していきます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

道路側溝の清掃については、巡回パトロールや市民要望を合わせると、年間約180件あり、本市土木補修課の直営班や業者委託により対応しています。

「ゴミが溜まって悪臭を発する」とのことですが、その際は現場を確認いたしますので、本市土木補修課まで御連絡くださるようお願いいたします。

また、道路清掃については、落葉時期や台風の後など、近隣住民の御協力や本市土木補修課の直営班、業者委託により清掃しています。

（事務担当は土木補修課道路維持補修担当）

【参加者】

旧国道1号線沿いの植え込みは、昔からの住民の献身的な清掃によって非常にきれいに保たれています。しかし、大きなマンションが建ち並ぶ国道1号線沿いの植え込みは誰の手も加えられず、雨が降って溜まったものが放置されています。非常に見苦しいです。

【市長】

国道1号線は国の管理する道路で、大変申し訳ありませんが、国の管轄には手を出せません。植え込みも同様ですが、あまりにも状態が悪い時には、土木部から県や国に伝えます。把握や要望はしっかりと行っていきます。

【参加者】

今後、相模川の左岸地域をどのような場所にしようと考えていますか。私が子どもの頃は、釣りなどをして川で遊んだことを覚えています。現在は川辺にも行けません。子どもが自然と親しめる場所になるよう願っています。

【市長】

相模川の左岸地域は防災対策のための築堤だけでなく、子どもが自然に親しめる場所になってほしいと思います。右岸では地域の皆様の御協力によって開催する水辺の楽校があり、多くの子どもが自然に親しめるようになってきました。まずは、地域の皆様に安心安全を提供するための築堤を完了させ、その後、相模川の利用についても考えていきたいと思っています。

【参加者】

馬入のお花畑は、雑草が多くてボランティアだけでは面倒をみきれません。手入れ不足によって花がきれいに咲かなくなってきています。行政が行える対策を考えてほしいです。

【市長】

水辺の楽校と同様に、馬入のお花畑も、松原地区の皆様には本当にお世話になっています。ボランティアのお力が少しずつ減っていることは聞いています。今後、行政が支援できることを再考させていただく必要があると思います。

【参加者】

ごみの減量化や資源化について、近隣の市町村との連携やごみ処理の有料化は避けられません。しかし、有料化は不法投棄や不法排出を招く恐れがあります。有料化の計画は、明確なスケジュールを市民に示しながら行ってほしいです。

【市長】

現在、大きな事業を3つ進めています。市役所新庁舎の建設と環境事業センターと市民病院の整備です。3大事業として、広報ひらつかでも進捗状況を掲載しています。環境事業センターは大神地区にあるものを建て替えています。現在のセンターは、日量約294トンの焼却を行えます。約24年間使用してきた焼却炉で、焼却能力も衰えてきました。

昨年度、大磯町、二宮町とごみ処理の協定を結び、ごみ処理に関わる各市町の役割を決めました。全国的な取り組みですが、各自治体が全てのごみ処理を行うことは非効率で環境にも悪いため、複数の自治体が協力して行う取り組みです。新しい焼却炉は日量315トンのごみを焼却する能力がありますが、1

市2町のごみを合わせると、焼却施設を安定的に運転できる量にはなっていません。市民の皆様のお力によってごみの量は減っていますが、再度、さらなる減量化や資源化を進めていただく必要があります。

ごみの減量化や資源化を進める中で、ごみ処理の一部有料化も考えます。二宮町では、ごみ袋を購入していただく方法で有料化を行っています。平塚市も、一般廃棄物処理計画では、ごみの減量化や資源化を見極めながらも、ごみ処理の有料化を考える必要があるとしています。基本的には、市民の皆様の御協力による減量化や資源化によるごみ処理を進めながら、一部有料化という方法も考えていきたいと思えます。

【参加者】

野良猫が庭に糞尿をして困ります。自治会では、回覧板を回して野良猫の把握に努めていますが、公園では餌を与えてしまう人もいます。

【市長】

野良猫の対策は、市民の皆様の提案による協働事業として、不妊治療を含めた対策を行っていただいています。罰することはできませんが、餌付けしてしまう人には、環境政策課から指導させていただきますので、御連絡をお願いいたします。地域の皆様が同じ方向を向いて対策を行うことが重要です。行政は呼びかけや注意喚起も行っていきたいと思えます。

【参加者】

天沼の地域には公園や緑地がありません。公園や緑地は地域住民の交流や憩いの場となります。公園があれば良いと思えます。

【市長】

地域によって、公園が少ないところがあり、大変申し訳なく思えます。新たな開発においては、緑地確保も行う必要がありますので、参考にさせていただき、考えていきたいと思えます。

④ 高齢化社会について

【参加者】

松原地区には商店街がほとんどありません。ダイエーも閉店し、買い物はオリンピック湘南シティまで行く必要があります。高齢者が買い物にも行けない地域になってしまいました。買い物だけでなく、平塚市内の様々な場所に行ける交通機関ができれば良いと思います。

【市長】

高齢者の方の買い物難民は大変な課題です。食料品は重要で、スーパーマーケットなどの中には、宅配サービスを行っているところもあります。

現代の中心街には、利便性を求める高齢者の方が集まります。特に、この松原地区は利便性や様々なサービスが求められる地域です。そこで、松原地区の日産車体跡地に開発される商業施設には、バスなどの運行によって中心街からの回遊を考慮してもらうよう要望しています。コンパクトシティ化と言われますが、中心街にしながら医療や介護などのサービスを享受できるまちづくりを、行政も一緒に考えていきたいと思っています。

【参加者】

老人クラブの会長をしています。最近の高齢者は元気で、老人会ではふれあい広場を借りてグラウンドゴルフなどをします。松原公民館や町内福祉村では、高齢者の交流の場が設けられていますが、老若男女問わず、地域住民が気軽に集える集会所があれば良いと思います。

【市長】

平塚市の高齢化率は約23パーセントです。今後、3人に1人が65歳以上になります。高齢化社会を前提に、暮らしやすいまちをつくる必要があります。ふれあい広場での活動を非常にありがたく思います。新しいものをすぐに造ることは難しいですが、行政は地域の皆様のお力をお借りしながら、地域の皆様が交流できるまちづくりを考えていきますので、御支援をお願いいたします。

【参加者】

松原公民館の2階には洋式便所がありません。高齢者が集まることも多く、足腰が弱った高齢者に階段の上り下りは大変です。洋式便所は必要です。

【市長】

現在、小学校では、和式便所から洋式便所への改修を進めています。公民館自体の改修にも併せて、公民館の洋式便所への改修も計画的に進めていきたいと考えています。

⑤ 日産車体跡地の開発について

【参加者】

先日、日産車体と三井不動産の担当者の方が来ました。日産車体跡地の開発に関する説明会を開くため、回覧板を回してほしいとのことでした。日産車体跡地の開発について、現在の進捗状況を聞きたい。

また、同じ松原地区の住民として、日産車体跡地にできるものと地域との関わりについても聞きたい。

【市長】

日産車体の湘南工場第一地区の跡地は、広さが約19ヘクタールあります。これまでの流れについてお話すると、日本のものづくりは大変厳しい状況になり、コストの削減が求められるようになりました。特に、日産車体は北九州に新しい工場を造り、自動車を製造して目の前の港から自動車を輸出できるようになりました。日産車体は平成19年2月に湘南工場第一地区の閉鎖を発表しました。同年9月、日産車体と平塚市は今後のまちづくりを話し合い、ありがたいことに、平塚市とともにまちをつくりたいと仰っていただきました。持続可能な経済の活性化や緑と環境共生、快適な暮らし、周辺市街地との調和というコンセプトに合意しました。平成23年11月の発表後、今年2月をもって車両の生産が中止になりました。同時期に、工業や商業、公共公益機能、住居という4つのバランスがとれた複合的な土地活用の提案があり、平成24年3月、三井不動産の協力を得た開発のお話をいただきました。

行政が日産車体の土地の活用には指示はできませんが、一緒に考えようとお話をいただきましたので、公共公益機能の中には防災などの市民の皆様役に立つ機能を考えていただくよう提案しました。商業は人が集まるだけでなく、駅からの回遊性を図ることや地元のもので販売できること、住居では戸建やマンションだけが建ち並ぶことがないよう考える必要もあります。地域への貢献を考え、地域の皆様が住み良く、利便性が上がるようになれば良いと考えます。

【参加者】

開発にあたり、建物の高さ制限のような、景観維持に関わることはどのように考えていますか。

【市長】

中心街では、最高31メートルの高さ制限があります。また、この跡地の周りには住居の建設も想定されます。平塚市には景観条例もありますので、まちの景観を損ねるような建物や看板などが無いよう、日産車体と三井不動産には

お願いしています。この4月1日から、建物への許認可が県から市におりましたので、地域の皆様のお声に合わせてまちづくりを要望していきたいと考えます。

【参加者】

平塚市の人口は26万人を下回り、減り続けているようです。中心街も人が少なく感じるようになりました。県のたよりを見ると、人口は900万人を超えて増えているようです。日産車体の工場などがなくなり、仕方ない面もありますが、ぜひ、元気で活気のある平塚市にしてほしいです。

【市長】

神奈川県では横浜市と川崎市の人口が増えています。他の市町村は軒並み減っている状況です。まちの広がりや人口増加を求めるまちづくりが必要な時代です。高齢化社会を迎え、発展を求めたまちづくりをしなければ、まちを持続可能なものにすることもできません。

平塚市も最高時には人口約26万5千人になりましたが、今は26万人を切っています。人口を増やすためにも、雇用も含めた元気あるまちづくりが必要です。しかし、乱開発によって、これまでの平塚市の良さを失ってははいけません。平塚市の魅力を感じていただき、多くの方が住んでいただけるまちをつくることが目標です。

7 市長によるまとめ

松原地区の皆様のおまちづくりに対する思いを聞かせていただき、また、課題を教えてくださいました。課題については、行政として真摯に捉え、各担当課にて考えさせていたいただきたいと思っております。

私は、日頃から、この松原地区はまとまりがある地域であると感じています。ぜひ、地域の皆様のお力をお借りし、この地域が平塚市のまちづくりの先導役として活躍していただければ本当にありがたいことであると思っております。そのために、我々行政も一緒に前を向き、進んでいきたいと思っております。

今日は本当に貴重な御意見をいただきありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 16件（参加者 16件 傍聴者 0件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	1名	1名	0名	7名	7名	0名

性別

男性	11名
女性	3名
回答なし	2名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	2名	0名	2名
ポスターやチラシ	0名	0名	0名
町内会など地域から	12名	0名	12名
市ホームページ	1名	0名	1名
その他	1名	0名	1名
回答なし	0名	0名	0名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	6名	0名	6名
まあよかった	9名	0名	9名
どちらともいえない	1名	0名	1名
あまりよくなかった	0名	0名	0名
よくなかった	0名	0名	0名
回答なし	0名	0名	0名

質問3 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

回答 ・なし

質問4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	4名
まあ伝わった	9名
どちらともいえない	1名
あまり伝わらなかった	0名
伝わらなかった	1名
回答なし	1名

質問5 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

回答 ・なし

質問6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答

- ・市長さんからの丁寧な御返事やお話、ありがとうございました。
- ・活気ある平塚市、松原地区になるよう、期待しています。
- ・今後も対話集会を続けてください。
- ・今日のほっとミーティングは非常に良かった。
- ・時間が短かった。
- ・テーマをしぼった方が良いと思います。
- ・市長と話すことが初めてで、良かったです。
- ・市長のまちづくりへのビジョンが見えてきました。
- ・短時間で広範囲の話題に答えていただき、御苦労さまでした。
- ・市長の前で発言できて、想いが話せました。